
七つの大罪

プライド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七つの大罪

【Nコード】

N9980E

【作者名】

プライド

【あらすじ】

この作品は人間の七つの大罪を主に書きました。それぞれの大罪をホムンクルスたちにあてはめた短編集です。全八話でよろしくお願いたします

傲慢（プライド）（前書き）

少しグロテスクなところがございます。無理な方は、ご遠慮ください。

傲慢（プライド）

今、私の前にある大きな建物。

これは、錬金術師の学校だ。

校長は国家錬金術師だと聞いた私の敵。倒す相手。

「プライド only」 太陽が少しまぶしい。

目の前には、大きな門がある。 多分校門だろうか、ガード

マンらしい男が2人立っている。 まず手始めにあの2人を殺

ろう私は、不適な笑いを浮かべながらガードマンのいる門に歩いていった。 「おいっ！関係者以外は中

に入れない。さあとつとと帰れ」 男の1人は、私にそう言った。

「無理なお願いです」 私は、あくまで人間のような微笑

みで言った。 「なら力づくでかえらせるぞ」

ガードマンの2人は、私を取り押さえようとした。

「じゃまだよ」 私は、2人を鎌で切り裂いた。赤

い薔薇のような血が飛び散った。ぴたつと数滴顔についた。 「

バカな奴ら」私は、2人の死なんて何とも思わない、だって私の名前プライドは、愚かな人間の傲慢な心という意味だから…

なんだかとてもムカムカしてきた。

私は、門を通って学校の中に入った。 中は

かなり静かだった。 私は、近くの教室を覗いた。 「この印

は、ホムンクルスを表したものだ」

「彼らは、7人いる、みな人間離れた存在だ。

彼らは、我々錬金術師の敵だ、万が一遭遇したらかまわず全力

で倒せ」 「はいっ！」 私は、

彼らの言葉に怒りを覚えた。 私は、この

学校の全員を殺すことを決めた。 「では、ホムン

クルス達の名前は…」 ガッシャー

突然窓ガラスが割れた。 「な、何だ！」クラ

スの生徒達は、声を挙げて立ち上がった。

私が私の

力で窓ガラスを割ったのだ。

「皆さん落ち

着いてください」

「一体誰が…」

私は、教室の扉を蹴り飛ばして中に

入った。

「私ですよ、愚かな錬金術師さん達」

「誰だ！」

した。「まさか…」

教師の1人が私の左腕に注目
「かかつてきなよ。」

錬金術師さん達」

私は、鎌を振り上げた。

「皆さん校庭におびき寄せてください」

教師の1人が生徒達に言った。

「はいっ！」

生徒達は、一斉に校庭に向かった。

「じゃあ、あなた達の作戦に付き合ってあげましょう」

私は、不適な微笑みをしながら校庭に向かった。校庭

に着くと生徒全員と教師全員が待ちかまえていた。

「お前の弱

点は、このフラメルの十字架の錬成陣だ」

その瞬間地面に

書かれた錬成陣が光り出した。

彼らは、勝利に満ち

た顔。ホームクルスは、あっけないなどと考えていた。

「ホームクルス覚悟しろ！！」

光は、

さっきにも増して輝き出した。「これで勝ったと思うのは甘いです

よ」私は、弱点であるフラメルの十字架の錬

成陣には倒せないように体中に人体錬成の陣が書かれている。

「た、倒れない！」

「あなた達の負け

です。私には、この人体錬成の陣が書かれてますから」

生徒達は、混乱して騒ぎ出した。

「皆さん落ち着いてください」

「所詮愚かな人間

ですこと」

私は少し悲しくなった。そんな中1人の教師

が私の異変に気づいた。

（奴の顔がなんだか悲しみ

を感じている）

その時、私の目から一筋の涙が

流れた。

「ど、どうしたんだ！」

生徒

達や教師達は、不思議に思った。

「どうし

て奴は泣いている」

（私は何故愚かな人間のために泣いて

るんだろ）

「本当に何故涙が…」「ホ

ムンクルス、何故お前は泣いている」

「その呼

び方やめてください。私は、傲慢のプライドです」 私は、ギツと

睨んだ。

「何か事情があるなら聞いてやろう」

（何故人間でない私にそんなことを聞くんذار。まあいいや） 「私は、あなた達の傲慢な心が私を動かしたんです」

私は、校庭の真ん中に立った。「人間の七つの犯してはならない罪、つまり七つの大罪、色欲、暴食、嫉妬、強欲、憤怒、怠惰、そして傲慢。今ここに彼らの傲慢な心をあらわしください」

その時私の左腕に書かれているウロボロスの入れ墨と地面に書かれているフラメルの十字架の錬成陣が光り出した。 「な、なにがあつたんだ？」 「開け扉！私

の大罪を吸いたかまれ」

その時、地面から

学校がスッポリと入ってしまいそんな巨大な扉が出現した。「色、

暴、嫉、強、憤、怠、傲（しき、ぼう、しつ、きょう、ふん、たい、

ごう）七つの大罪ここに現れし」

ギーと鈍い音

をたてて扉が開いた。

「なんだこれは」

「どうか愚かな人間をお許してください」

すると扉の中から影のように黒く手の

ような触手が無数出てきた。そして…

「さあ、

存分にいただいてください」

黒い触手は、

生徒達を次々に扉の中に引きずり込んだ。

「私たちの生徒に何

をする！」（そんなの決まってるじゃん）（）

「あなた達錬金術師を生かしておく必要がありません」

（本

当は、二度と同じ過ちをしないためののに…）

「やめろ

く…！」

「無駄なあがきです」

私は、再び

鎌で切り裂いた。

少し黒い血が飛び散った。「人間って愚かで

悲しい生き物」私は、改めて思った。

そして私は、この学校を跡形もなく消し去った。

ホムンクルス、それは、人間の七つの大罪が源として生まれた形である、色欲、暴食、嫉妬、強欲、憤怒、怠惰、そして傲慢。

決して二度と犯してはならない罪、もしも、犯した時、そのものに神からの罰をくだることになる。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9980e/>

七つの大罪

2010年10月9日18時45分発行